日本橋老舗企業に学ぶ経営の知恵～日本橋的経営のススメ～ 4

【創業は易く守成は難し】…『十八史略』（唐）より

日本橋は世界屈指の老舗集積地域。東京中央区の一地域でありながら、約二百社以上の老舗が現存する脅威の商業地域である。このコーナーでは各回二店舗ずつ老舗を取り上げ、老舗に共通する経営特徴から〝経営の秘訣〟を探る。

日本橋めぐりの会　日本橋アクティブガイド
遠藤梨栄

「竺仙」社長の小川文男さん

小津史料館の松浦節也さん（左）と小津和紙博物舗店長の一瀬正廣さん（右）

時代と流行を先導する

「竺仙」は創業百六十六年の浴衣と江戸小紋の老舗である。近年の浴衣や着物ブームでは、仕立ての良さや洗練されたデザインで若者を中心に篤い信頼を得ている。

「小津」は創業三百五十五年の老舗の紙屋である。現在、主力の不織布をエレクトロニクスや医療、農業分野に応用し、最先端の技術を担っている。

創る

欧米文化の浸透とともに、大量生産に適した規格品としての洋服が普及し、和服は日本人の日常着から、特別な日に身に纏うもの、あるいは趣味や嗜好によるものとなった。「竺仙」は必需品ではないからこそ、伝統を一方的に押しつけるのではなく、顧客の満足感を第一に、時代の感性も大切にしたいという。

印刷技術の発達が大量印刷に適した洋紙の普及を促進し、住環境の洋風化とともに、和紙もまた日本人の身近な素材から個人の生活様式に依存する特殊な素材となった。「小津」は日常の中から潜在的な需要を見出し、紙と紙作りの技術を応用、幅広い産業の先端領域に参入した。紙は今も形を変えて、私達の暮らしを支えているのである。

既存のやり方や伝統を押しつけず、新しい時代には新しい価値やスタイルを形にし、提案し続ける老舗は、デザイナーでありクリエイターでもある。

育てる

伝統文化や慣習を知らないことが前提の現代社会では、市場は創り、育てていく努力が欠かせないと「竺仙」は考えている。良さやこだわりを理解してもらったうえで買い求めてほしいと、福徳塾※での文化講座や大学での講演にも積極的だ。

「小津」は卸商であったが、二十五年前に小売を始めた。より多くの人々に和紙の魅力を伝え、作り手を含めた伝統文化の担い手を育てたいと、文化拠点となる教室や紙すき工房、史料館、ギャラリーを設けている。

新しい価値は、いつも感度の高い一人から生み出されるが、それを支えるのは社会全体である。伝統文化は次の作り手と社会とを育て、結びつけることによって継承されていく。老舗は創りながら育てていく。そうして今日までつながってきたのである。

※福徳塾：日本橋の文化と伝統の発信を目的に、参加型の講座を多数開催している。
（http://www.fukutokujuku.jp/）

日本橋めぐりの会…〈日本橋老舗リレーツアー〉や〈日本橋オーダーメードツアー〉〈日本橋交流会〉〈日本橋シャッターチャンスプロジェクト〉などを通して、日本橋・京橋地区の街づくりを提案・実行・応援する有志の任意団体。URL：http://www.ninben.co.jp/meguri/

◆経営のポイント◆

❶「大功を成すものは、衆に謀らず」
…『戦国策』（中国・戦国時代）

周囲の意見や時流を軽んじるわけではない。十分耳を傾けたうえで、その中から光り輝くものを見出すことが、時代を創る者たちの仕事である。決定と責任を人任せにしないからこそ、核がぶれずに永続していけるのである。

❷「和氏の璧」
…『韓非子』（中国・戦国時代）

どんなに素晴らしい技術や伝統の真価でも、世に理解され、認められるのは容易なことではない。良さやこだわりを理解してもらえるような市場や担い手を育ててこそ、宝石は輝きを増すのである。

企業基本情報

①株式会社　竺仙
屋　号：「竺仙」
創業地：浅草
代表者：小川文男
事業内容：浴衣および江戸小紋の製造販売
創業年：1842年（天保13年）
資本金：3,500万円
売上高：非公開
社員数：25名
所在地：日本橋小舟町2-3
電　話：03-5202-0991
URL：http://www.chikusen.co.jp

②小津産業　株式会社
創業地：日本橋
代表者：中田範三
事業内容：不織布、家庭紙、日用雑貨、洋紙・紙製品、和紙などの国内販売・加工および輸出入
創業年：1653年（承応2年）
資本金：13億2,221万円
売上高：315億円(平成19年5月期)
社員数：139名(平成19年5月期)
所在地：日本橋本町3-6-2
電　話：03-3661-9400
URL：http://www.ozuwashi.net/